

## 第6回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和5年1月20日（金）15時00分～16時30分

会場：湖西市役所 市長公室（オンライン併用）

テーマ：これまでの成果と令和5年度に向けた取組について

発言者	発言内容
土居委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・5万人前後の人口規模の自治体で言うと、物流というか工業の集積地として道路でここまでたくさんトラックを見ることは湖西市以外ではない。いかに工業がしっかりこの地に根付いて、市の経済を回していることが車で市内を回ったこともあり、非常に印象に残った。</li><li>・もちろん遠州灘のように風光明媚なところがあることは別の魅力としてあるが、経済の観点で言うとしっかりとその地場産業が市の経済を支えている。</li><li>・どこの日本全国どこでも人口減少・高齢化による悩まされているところなので、それを覆い隠すということは全国どこでもできないとは言え、少なくとも現在はしっかりと湖西市の経済を回している、回していけているということは強く実感した。</li><li>・これまで5回のこのアドバイザーボードで小林部長からもご説明があったようにいろいろ意見を言い、市長をはじめ着実にいろいろな形で取り組みに反映していただいていることは、参加させていただく中で非常に手応えとやりがいを感じた。</li><li>・特にこれからということ言うと、まさに脱炭素やガソリン車から電動車という方向に自動車環境が非常にスピーディーに動いている中でバッテリーパークに、未来を切り開く工場を誘致された。</li><li>・これから新しく展開されていくところは非常に期待が高く持てると思っており、そういう意味ではこれからの政策にも着実に反映していただけたと思った。それと共に令和5年度の重点施策について、特にこの目玉というものは非常にそれぞれ住民の方々にはいい恩恵が及ぶものが並んでいると思った。</li><li>・これをぜひとも議会、直接住民の方々にこの目玉施策のPRをしていただき、さらにはなぜ良いことなのか市民の方々に納得いただける説明があると、ますます予算がより多くの人に伝わるのではないかと。</li><li>・医療連携体制の強化を令和5年に着手されるということが非常にタイムリーだという意味で素晴らしいと思った。令和6年度から第8次医療計画と第9期介護保険事業が始まるタイミングの前の年にあたる。計画を作るのがまさに今年ということですので、今年、着手していると来年から始まる第8次医療計画と第9期介護保険事業に間に合う。</li><li>・来年から6年間なり3年間のこれらの計画がスタートするにあたり、新しい計画が始まってからだと新しい計画に何も訴えかけられず、計画が始まってしまったので、その計画通りに進めるしかないが、今年計画をどうしようかとみんなで考えて検討するという年に</li></ul>

前もって医療機関の連携協定を結んでこれを成果として、ぜひ令和 6 年からの計画に連携協定の成果を反映して、この先 6 年間に繋げてくださと訴えるには非常にタイムリーだと思う。

・令和 6 年度からだと思うが、かかりつけ医機能という話がいよいよ本格化する。ただ令和 5 年度予算だとまだ何も決まってないところがある。かかりつけ医という言葉は以前からあって、新型コロナでワクチンを打とうとかかりつけのお医者さんに行くに行った先のお医者さんが、患者さんにあなたのかかりつけ医だとは思っていないということで、患者さんが追い返されたという話があったこともあり、それではいけないとしてちゃんとした仕組みを作る動きに繋がった。

・コロナがきっかけで、かかりつけ医が重要であり、かかりつけ医という仕組みが公の仕組みではなかったということが分かったので、国としてかかりつけ医という公の仕組みを作りましよう動き始めており、本格的な動きとしては令和 6 年度以降になる。

・湖西病院などがどういう形で関わるか、特にかかりつけ医ということになると身近なお医者さんということになるので、もちろん身近な 1 人のお医者さんということではなく、身近なかかりつけ医療機関という形の関係で、複数のお医者さんがその病院にいていいのだが、私は体調面で困ったらこの医療機関にまず最初にかかることが本当の意味でのかかりつけ医機能ということなので、それをどういう形で湖西病院が担うのかというところは、さらに今後、深堀すると良いところだと思った。

## 大倉委員

・湖西に住んで子育てし、日々暮らしている者という視点で言うと、本当に産業・暮らしが安定してこそ暮らしていける。そういう意味では、例えば新居弁天の開発はいつも一号线を見てどうなるのか、だんだん土が積み上がってショベルカーがあんな高いところあるよと子供たちも本当に景色を期待しながら見ている。住んでいるのが岡崎なので電車で行ってシャトルバスがあり、子供たちが自分の小遣いで通えるような場所だと良い。もちろん定期マルシェなどもよいが、やはり自主自立という子供たちが冒険できるような場所があったらいいと思う。

・子供が新居文化センターの後輩の吹奏楽の演奏を聴きに行くと言っても、駅から距離があるので、いつも送迎して子供から「ありがとう」と言われる。公共機関を使って街の中を移動することも子供たちにとって冒険になる。

・施設や公共施設の再編成と書いてあり、湖西高校や新居高校のみんなの声が入っていることは報道で知っている。

・自分のフィールドである子育ての領域でと言うと二つほど気になるといふか、ぜひということがあり、出産子育て応援交付金がタイムリーにあり、自身が N P O 法人の理事として専門領域で、昨日厚生労働省の方から直接、N P O の受託の候補者になるような人たち 500 人を集めた研修会があり話を聞いた。そこで出てきた現実としては、託せる民間がいたとしても、まずは自分たちでやりたいと市の皆さんが思っている。それは私達を信頼していないのではなく、仕事が増えることへの懸念やすぐ市民に届けたいので調整しているパワーがないという実情が上がってきている。

・信頼関係があつてこそだが、それを聞いて思ったのは、助産師や保健師の方の負担がかえって増えるのであれば、新生児訪問が遅くなったり、市民が助けてほしいという子育ての一步や湖西市で生きていく、暮らしていくという一步を支えてもらうサービスが低下し

たら何にも意味がないと思った。

・専門職の方たちが本当にやるべき仕事に集中できるような、やはりこれから体制を作っていたきたい。私も名古屋になるが、厚生労働省の認定資格を持って現場に毎日入っているが、本当に子育て頑張っているねと普通の会話をして、お母さんたちが涙を流す現場が令和でもまだあるので、専門の先生たちの仕事できて私達のようにトレーニングを積んだ支援員が変われるものならこの簡単な仕事は変わる。要は周辺にいる支援職の専門職と言ふべきか、隣接する方たちが手を取り合って、新生児訪問もその部分は説明してもらってもいいかなというようなチームで子育てや人材育成、もの作りをすることが、結局、持続可能なまち作りにつながり、湖西市は温かいよねとなるのではないか。

・明石市のお米を運んでくる事例ばかり聞かすが、お米が温かいわけではなく、運んでいるシーンや配達員の方が温かいということで、本当は人が温かいということなので、湖西市でそれができたらどんなにいいだろうと思った。

・ぜひ子育てや人材育成など、その町を明るく元気にしていくときには、その資格でないとできない人たちの周りを支えることに私はすごい興味があると思ったので、ぜひそこに光を灯していただきたい。

・個人的にインスタグラムをすごく活用している者として、湖西市のインスタグラムもすごく綺麗な写真が上がってきて目に留まる一方で綺麗すぎて、これはリアルなのかと感じることもある。

・前回土居先生が一方的ではないかと仰ったように、上がっている内容は決して悪くないが、インスタの機能にあるが、双方向でやり取りできる。市民は有益な情報を取りにいてるわけではなく推せるかどうか、いわゆる推し活。好きという感情になるかどうか、例えばインスタグラムの女性が見ているところは多くて驚くが、好きで見ているのにフォローしない。それは推していることが分からないようにしたい心理がある。

・一般的に物を買ってくださいという発信の仕方ではどうしても難しく、私も子育て支援

を自身のインスタグラムやフェイスブックなどを運用する中で、買ってもらうための発信ではなく、推してもらうため、または知ってもらうため、すなわち繋がるための発信。究極命を救うので、そういう発信のあり方については、私もお力添えできるのではないかと、私以外の専門の方がたくさんいるが、湖西にいて、そういう視点もお届けできるかと思った。

## 岩間委員

・職住近接ということで湖西に住んで働く町ということが一番最初の時に市長からお話があったが、私の担当分野であるダイバーシティと女性活躍は企業がどのように取り組むか、どういふ問題意識を持ってやっていくかが非常に大事で、一方で社会全体が取り組む雰囲気にならないと前に進まないところもある。

・一社一社が、少しでも前に前進していくことで進んでいくことに期待している。コロナが流行して、人々の価値観や労働観も変わってきており、先ほど市長も仰ったように人口減少で若者が少なくなり、企業も本当に今人材を確保するのが難しくなっている。

・今、賃金を上げるといふ話もあるが、そうした中で湖西市の主要な産業である製造業もやはり男性だけが中心という体制ではもう既に立ちゆかなくなっていると思う。

・働くことと住むことが両方セットになり、湖西市で暮らして住んで幸せになるというような

話だが、やはり最近よく言われるウェルビーイングやエンゲージメントのようなただ働くのではなく、働きがいや生き生きと働けるような職場企業が増えていくと、より一層、湖西市の魅力が高まっていくと思うので、企業努力だけではなく社会全体の問題として自治体もダイバーシティ、女性活躍やウェルビーイングとかエンゲージメントなどを後押ししていくようなことをツイッターで発信するなど様々な手段を使って発信していくことで、皆さんに共通の認識を持っていただくことも大事なかなと思った。

## 野村委員

- ・普段、湖西版の紙面はなるべく見ているが、うなポンの露出が増えている。
- ・今、家庭からパソコンがどんどんなくなり、皆さんがスマホを見られるので、パソコンを立ち上げて、ネット検索しない状況になっているので年配の方の方はL I N Eが一番なじみやすい。若者は逆にL I N E離れしている。
- ・市民サービスとしてはL I N Eがすごく使いやすそうだと期待している。
- ・マルシェもSNS発信もファン作りは、やはりお世話がすごく必要になる。イベントを行い、楽しかったで終わったらそれっきりになってしまう。ずっと薄くでもいいので、繋がっていることは、本当におそらく当事者、担当者のいかに心を砕いてお世話するにかかっているところがあり、それは非常に大変なこと。
- ・ついに助産師外来で市内において自然分娩で産めるかもと話を聞いて、湖西で生める、湖西も生める町になったことは正直言ってかなり感慨深いところがある。一方で、自然分娩は侮れないところがあり、それは市側に責任があるというより市民に対しても当事者意識が必要で、本人たちもやはり力をつけないと、助産師で生むことは難しい。
- ・施策があるからもう安心と市民が何も考えなくなってしまうのはいけないので、正しい患者力をつける、医療もそうで患者力や妊婦力ではないが、しっかりきちと市民自身が当事者意識を持つことが大事。
- ・施策をやった、やったよと聞こえがいいだけではなく、充実した制度にするには、市民の皆さんの力も必要で、「助けてください」「一緒に学んでいきましょう」といった働きかけも必要になり、小さな行事や小さな勉強をどんどんきめ細やかに続けることが、施策が生きるには大事なことかなと感じた。

## 菊池委員

- ・私が報告させていただいたときに、今の湖西市の政策の方向性は間違っていない、このまま続けてくださいというお話をさせていただいた。
- ・基本的に影山市長の市政は市民目線になっている。今回の重点項目もそうだが、医療福祉、結婚子育て、それから教育などの人材育成、あとは産業振興や観光交流が基本的にずっとこの市政が一貫されていて、本当に素晴らしい。
- ・前も申し上げたが、市長が変わるとこの政策が終わってしまうということではなく、長く持続させていくことが湖西市の持続可能な地域作り、まち作りに繋がるのではないかなと思う。
- ・その上で基本的にはこの重点施策も含めてこれまでの政策を進めていただくということでもよしいかと思うし、先ほどのマルシェの話もとても魅力的なので、ぜひできたら行ってみたいと思っている。
- ・どうしても行政の予算というのは単年度が基だが、持続可能なまち作りということを考えると、やはり中長期的な視点というのも同時に考えていく必要がある。
- ・もちろん考えていると思うが、中長期的な視点であえて私が3点申し上げるとするなら

ば、まず1点目は行政、市の最大の任務というのは市民の命と暮らしを守っていくこと。その観点から色々な政策を出されていると思うが、これからの時代どういう時代になっていかわからないところもあり、まさに今の物価高や厳しい経済状況であり、あるいはいろいろな負担が増していく方向にある。私も今、湖西市の上下水道事業に関わらせていただいているが、市民の負担に関わることももしかしたら検討していかなければならないかもしれない。そういう状況の中で、まずはそういう市民の命と生活をしっかりと行政に守っていただくということが中長期的にもまず第1に大事なこと。

・それから二つ目が、湖西市の特徴としてももの作りのまちで、経済産業が非常にしっかりしている。前の報告の時に申し上げたが、その方向性をこれからも継続させていくことが一方では大事。ただ他方では、これから日本も含めた世界の産業構造がどのように変わっていくか非常に難しいところがある。特に先進国においては、工業から第三次産業とか、情報産業とか多様な産業に変わり、工業だけで先進国をずっと続けることはなかなか難しくなってきた。そういう中で、一方では今ある工業・製造業を守りつつ、もう一方ではもし、徐々に衰退していくというふうになった場合にどうするのか。おそらく市長が退任されて何十年も後の話だとは思いますが、私も産業構造の転換に際してどういう選択肢をとればいいのか申し上げる知識はないが、わからないなりに、状況の変化にも市が対応しうるためには、多様な人材を市が整えておくということが重要ではないか。

・価値観もそうで、皆様も仰っているが、やはり女性・外国人、それから若者、あるいは製造業中心の町だが、一方で私の希望としては、これからはデザインや芸術、環境、アート、食など多様な人材が市にいて、製造業が今のままの状態でなかったとしても、そういう方たちが新しいイノベーションや新しい化学反応を起こしていき、市を支えていく。そういう意味で皆さん方が仰っておられるような多様性などが大事になってくる。

・それともう一つが行政の役割というのは非常に重要だが、できることはやはり限られてくる。資料の7ページにも書いてあるが、行政だけでは地域課題解決できないことが書かれており、そのためには、市民と行政の協働ということが盛んに言われているが、やはり市民の自治力、協働の力をどう高めていかにさらに考えていく必要がある。

・影山市長は、非常に市民目線で市民のために一生懸命やられているが、その一方で市民はお客さんではないので、市民は自分たちの地域を自分たちで作っていくことが本来の自治のあり方ですので、さらに自治力を醸成していくための啓発、あるいは財源や権限の委譲もこれから課題になる。

・市民の内発性をいかに高めていけるか。大倉委員のような子育てなど主体を育成していく必要があると思う。あと今いろいろなところでやはり注目されているが、そういう主体間を結びつける中間支援の重要性が指摘されてきているので、これからさらに湖西市を持続可能な形にしていくためには重要なのかなと皆様のお話をお聞きして思った。

## 井上委員

・一つ目が女性活躍について、私の所属が工学系の大学で、学部内中で差がある。機械、電気・電子情報、情報・知能、応用化学・生命、建築・都市システム(土木)の学科があるが機械、電気・電子情報、情報・知能の女性の比率が非常に低い。

・昔から化学系は女性の割合が高いと言われており、建築も設計希望で入ってくる学生も多いが、設計での就職先はあまりない。土木は元々、学生が男性だけだったが、今年の新入生は初めて建築・都市システム学で、男性より女性の方が多かった。

・どうやって変わってきたか考えていくときに、私が就職担当をここ2年間やり、10年前にも担当した。10年前は氷河期が終わった頃で、推薦などいろいろな採用制度があるが、企業の方が来られて話している時に女性の学生の採用の話をいつも振っていたが、男女共同参画があるので表立っては言えないが、女性の学生は遠慮願いたいというニュアンスを聞いていた。しかし、ここ1年は土木系の企業も女性学生の積極的採用の話を受ける。

・変わってきた背景には国の政策などで、女性の比率を大手の建設会社で高める必要があることもあるが、女性学生を採用したところ優秀だということが分かり積極的に採用している企業もある。10年から15年かかって、女子学生の採用が増えてきた。建設現場で女性が活躍している建設会社のCMなどが流れるようになり、業界挙げて女性を活躍できるように変えようとしている。そのこともあり、やっと学生が学科を選択する時に土木も選択肢に入ってくるというように変わってきている。

・これからおそらく機械や電気・電子、そして、情報分野はもっと女性にとって入りやすい分野かもしれないが、希望する女性が増えてくると、湖西市中の機械や電気電子の工場や企業に女性が増えてくるような社会になっていこう。

・それを見越して湖西市も対策していただければと思っている。湖西市の子育てで湖西市にいる方に湖西市に住んでもらうということと、それから浜松や、おそらく豊橋がターゲットなると思うが、そこで働いている人たちに湖西市に住んでもらおうと思うと、子育ての部分でもっとわかりやすく湖西市で子育てしたら「どういうメリットがある」「いいところがある」とPRする必要はある。子育てするのであれば湖西市と思ってもらえるために、どういう発信をしたら住みたいと思ってもらえるかという視点から、保育料の値下げ、児童クラブの充実があるがそれぞれの市が競争したらいい社会になると思うので、豊橋市民や浜松市民に訴えかけるようなことも必要だと思った。

・住居について湖西市で今どれだけ開発されてるのか気になった。駅前に住みたいという人よりは車もあって、駅前から離れたところでも便利で、ニュータウン的なところに住みたいという要望があると思うので、湖西市で開発して人を呼び込んでいただきたい。

・私が住んでいる豊橋市の家の近くでかつての旧ユニチカの工場跡地を積水ハウスさんが新たに開発していて、かなりの戸数の町を作っているが、高すぎて売れていない。

・プロモーション戦略3について、戦略のターゲットが高校生で湖西高校と新居高校になっているが、これらの高校に通っているのは、湖西市民だけではなく、逆に湖西市民で浜松に通っている方も多数いると思うので、高校生をターゲットにするより中学生をターゲットにして、将来的に湖西市に戻って働く意識付けをした方が効果的かなと思う。

## 伊藤委員

・今回改めて湖西市の政策についてパンフレット見て、本当に自然が豊かで潮見坂、浜名湖があり、歴史もあり、関所や豊田佐吉、大知波というところに古刹の跡もあり、なおかつ優良な企業がたくさんある。言ってみればポテンシャルの面でなんて贅沢な市という印象を持った。

・2005年前後に平成の大合併があった。当時はスケールメリットがないと行政は成り立たないということで、大浜松市が誕生し、大静岡市も誕生した。合併から15年、20年経ってきて浜松市は区の再編をしており、静岡も静岡・清水の問題は相変わらず残っている。

- ・少しずつ平成大合併のスケールメリットということを少し見直していく時期ではないか。浜松でも場所によっては、細江の姫様道中も実施がなかなか難しいことがあり、そうした中で湖西市が人口6万人規模というのは非常にいいと思う。
- ・歴史を紐解くと昔の過去記事を見てみたが、平成の大合併の際には、当時の山本市長が湖西市は自主独立でいくということを宣言され、大浜松市の中に入っていかなかったことがある。
- ・ただ時が変わって、今は自主連携なのかと思っている。例えば行政の繋がりもそうだが、ショッピングモールにしても近くに大きなものが浜松市にあるので、そういうお買い物をする方はどうぞ行っていただければいいと思う。
- ・私も今日本当はリアルで参加するつもりだったので、電車を調べたら浜松市から15分、20分で着いてしまう。湖西市は非常に近い中であるので、やはり交通の良さも生かしていくことが必要なのかなと思う。
- ・そのためにはお隣の豊橋市も浜松市も市長候補の方が若いと言われているが、磐田市の草地市長も若く、皆さん本当に若い市長ばかり今誕生しているところがある。ぜひとも他の市町と連携しながらやっていただきたい。
- ・それから職住近接について本当にこれができたら素晴らしいと思う。どなたかも仰っていたが、それには約8時間の仕事ですね。仕事を充実させるような企業の取り組みをお願いしていく、援助していくことが必要。
- ・職住近接して寝る時間以外の8時間をどうするのかというところを積極的に関与していただき、通勤時間が非常に短縮されて、こんな素敵な暮らしができます。しかも医療・子育ては安心ですよというところを具体的に示せば、本当にいい市になっていくと思う。

## 野村委員

- ・ハゲタカの著者である真山氏の講演をしていただき、真山氏が言ったのが、ここでも何度か私が言っていることに近いと思うが、いわゆるA Iがどんどん進歩していく中で、中小企業はどうするのか、仕事が取られてしまうのではないかと考えている方が多いと思うが、見方を変えて欲しい。いわゆるルート営業や誰でもできるような仕事ではなく、例えば極端な言い方で言えば、全部A Iが作った部品ではなく、最後は人間が仕上げた部品と言った方が、これから売れるようになる。
- ・やはり最後の人間臭さを今後出していくことが活路の一つではないかとされていたので、さっき言っていたマルシェにすごく期待しているのは、浜松・豊橋両市のショッピングセンターみたいなものはないが、行くと楽しそうな人いつも繋がることできて、先程言ったようにフォローもしてくれて後々の繋がりができる。
- ・牡蠣小屋は正直まだいつも満員順番待ちをする際に、今時のスマートに順番を知らせることはないと思うが、係の方が軍手で熱いと言いながら提供してくれる、おそらく牡蠣が美味しいだけではなく、人間臭さがあるところが嬉しくて、楽しくて毎年通う方がいると思うので、そういうところは湖西市のいいところだと思う。